

# 高知県長期漁海況予報

## 平成19年下半年(8~12月)の漁況・海況の予想

平成19年8月発行 高知県水産試験場

このたび、平成19年8月から12月を予測期間とした「平成19年度第1回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁況海況予報会議」が横浜市で開催されました。独立行政法人水産総合研究センター、高知県及び関係都道府県等の最新の調査結果から長期予報が作成されましたので、高知県関係を中心にその概要をお知らせします。

### 予報の概要

#### 海況

黒潮：薩南海域の黒潮北縁は、屋久島南付近の変動が多く、11月に接岸傾向となる。

都井岬沖から足摺岬沖では接岸傾向、室戸岬沖から潮岬沖では離岸傾向で推移する。

沿岸水温：「平年並み」～「高め」で推移する。

#### 漁況

マイワシ： 前年並から上回る

ウルメイワシ： 前年並から上回る

マアジ： 前年並から下回る

サバ類： ゴマサバは前年を下回る  
マサバは前年を上回る

\* 詳しい内容については次ページ以下をご覧ください。

## 海 況

### 【海況の経過（平成19年1月～6月）】

#### 1. 黒潮

足摺岬沖では、1月は「著しく離岸」し、2月は「やや離岸」から「かなり離岸」で推移しました。その後、3月から5月中旬まで「接岸」、5月中旬から下旬にかけて「やや離岸」から「接岸」で推移しました。

室戸岬では、1月から3月にかけて「やや離岸」から「著しく離岸」、そして「やや離岸」と推移しました。その後、4月下旬に「接岸」したものの、概ね6月上旬まで「やや離岸」で推移し、その後「接岸」傾向となっていました。

以上のように、高知県沖における今期の黒潮は小規模な変動を示しつつ「著しく離岸」から「接岸」で推移しました。

黒潮流軸位置階級区分（足摺岬、室戸岬）

階級区分	範囲（マイル）
接岸	< 25
やや離岸	25 、 < 45
かなり離岸	45 、 < 65
著しく離岸	65

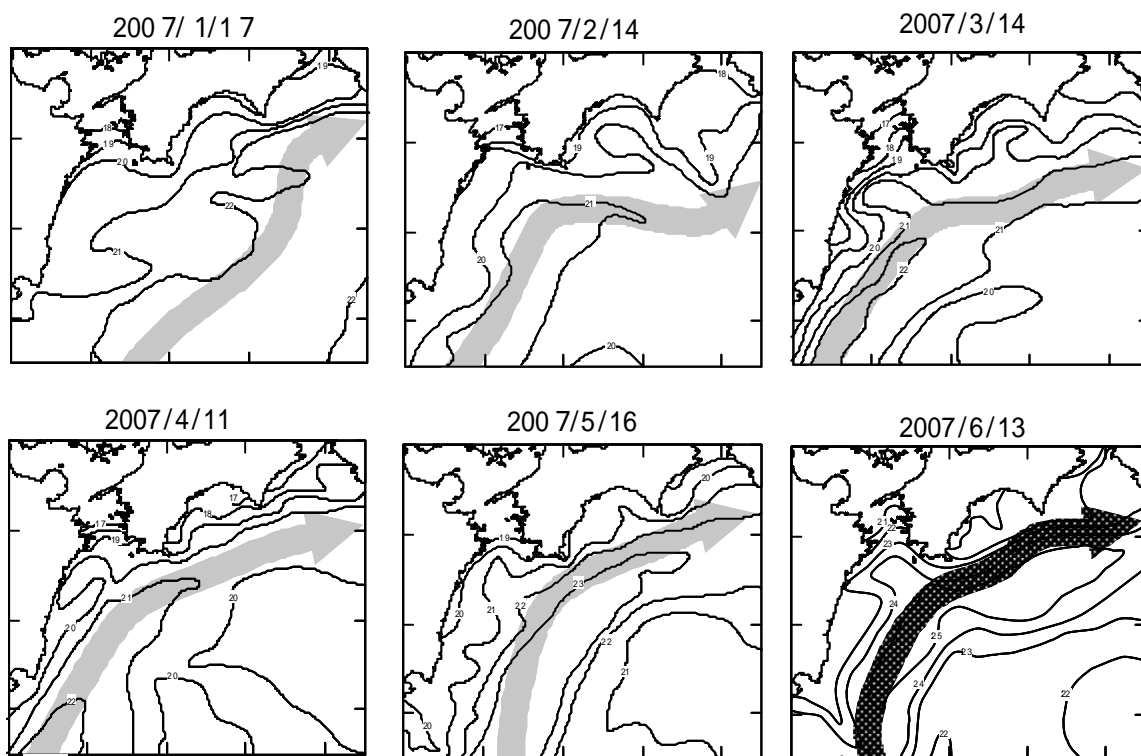


図1 NOAA 衛星海表面水温画像等から推定した黒潮流軸位置

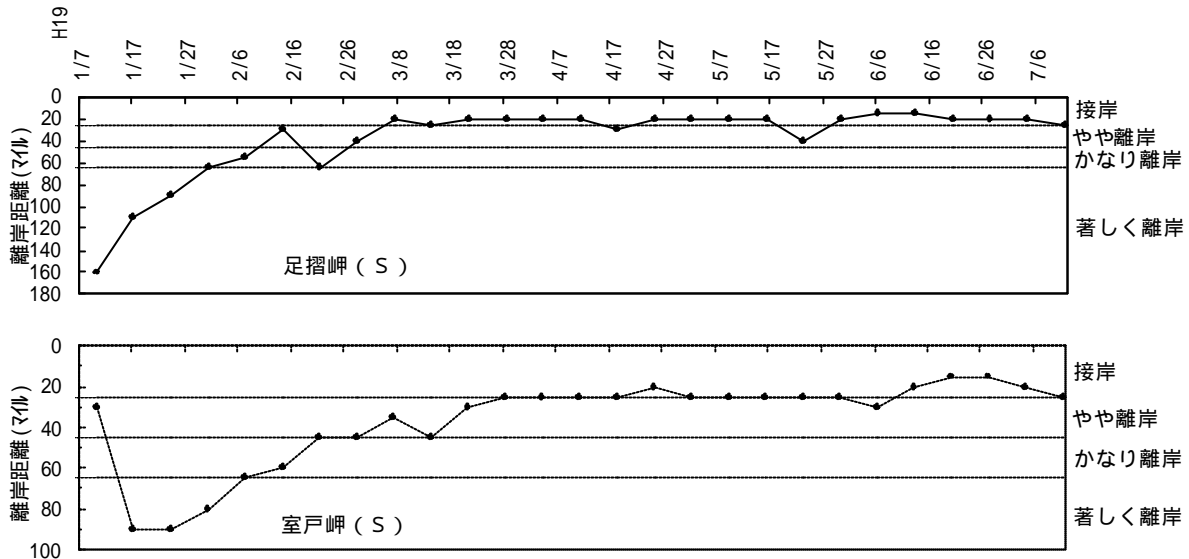


図2 足摺岬及び室戸岬からの黒潮流軸離岸距離 (高知県漁海況速報より)

## 2. 沿岸水温

月別にみると、1月は全層で「やや高め」でした。2月から3月にかけては全層で「かなり高め」で推移しました。4月は表層から50m層にかけて「やや高め」で、100m以深では「平年並み」でした。5月は100m層までは「平年並み」、200m層で「やや低め」でした。6月は表層と200m層で「やや低め」であった他は、「平年並み」でした。

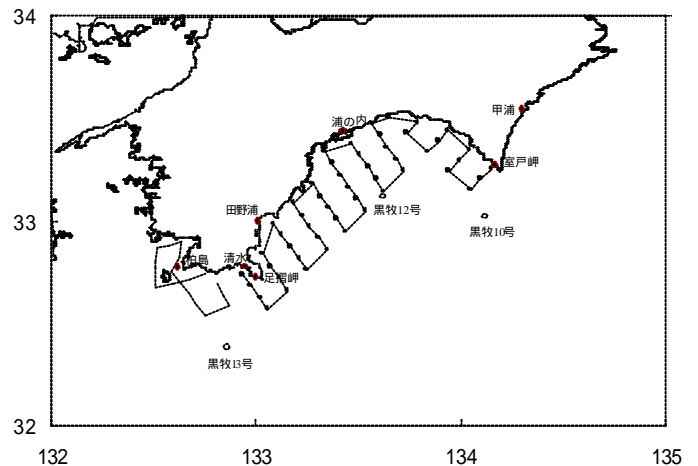


表2 土佐湾平均水温の平年偏差

水深	0m	50m	100m	200m
平成19年1月	+	+	++	+ -
平成19年2月	++	++	++	+ -
平成19年3月	+++	++	++	+ -
平成19年4月	+	+	+ -	- +
平成19年5月	- +	- +	+ -	-
平成19年6月	-	- +	- +	-

表3 土佐湾水温平年偏差の階級区分

記号	呼称・内容	偏差範囲
+++	著しく高め	2.2 以上
++	かなり高め	1.3~2.2
+	やや高め	0.6~1.3
+ -	平年並み (+ 基調)	0.0~0.6
- - -	著しく低め	-2.2 以下
- -	かなり低め	-1.3~-2.2
-	やや低め	-0.6~-1.3
- +	平年並み (- 基調)	0.0~-0.6

### 3. 特異現象

#### 海況

- ・特に目立った特異現象はありませんでした。

#### 漁況

- ・ 1～2月、足摺岬周辺のひき縄によるマルソウダ(メジカ)が不漁でした(平年比2%)。
- ・ 1月、宿毛湾における中型まき網でマイワシが好漁でした(平年比494%)。
- ・ 2～3月、土佐湾でシラスが好漁でした(平年比311%)。
- ・ 4～6月、足摺岬周辺のひき縄によるマルソウダ(メジカ)漁が持ち直しました(平年比176%)。
- ・ 5月～、足摺岬周辺の立縄によるゴマサバが不漁でした(平年比38%)。
- ・ 3～5月、土佐湾におけるひき縄によるカツオが不漁でした(平年比15%)。
- ・ 4月、宿毛湾における中型まき網によるウルメイワシが好漁でした(平年比451%)。

#### 【今後の見通し(平成19年7～12月)】

##### 1. 黒潮

流型：8月現在、「B型」流路の黒潮は、10月から12月に「C型」傾向の流路パターンになる見込みです。

四国沖の黒潮：黒潮は、期間を通して都井岬沖から足摺岬沖では接岸傾向になる見込みです。

室戸岬沖から潮岬沖では離岸傾向で推移することが予想されます。

##### (根拠)

人工衛星による日本南方海域の海面高度データを利用した小蛇行の形成・発達・東進の予測手法によっています。

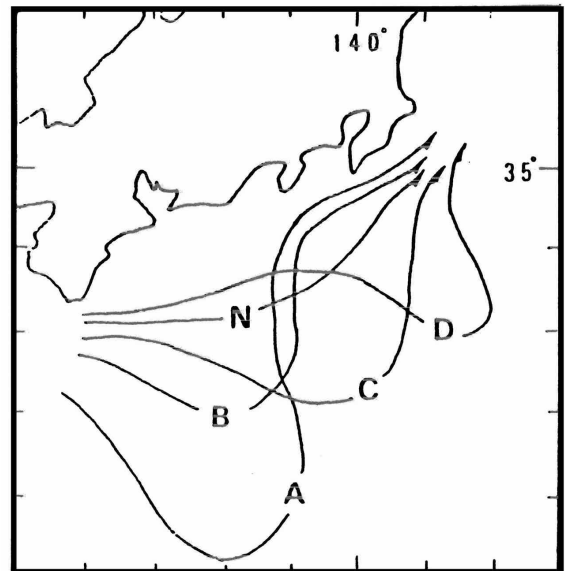


図4 黒潮の流型(吉田:1961、二谷:1969)

### 2. 沿岸の水温

「平年並み」から「高め」で推移する見込みです。

##### (根拠)

・高松地方气象台発表の「四国地方3か月予報」(6月25日発表、予報期間7～9月)によると、期間中の平均気温は「高い」か「平年並み」となっています。

・近年、土佐湾の表面水温は高め傾向で推移しています。

表4 定線観測による土佐湾内平均表面水温の平年値

8月	9月	10月	11月	12月
27.92	27.29	25.26	22.86	20.42

## 漁 況

### Ⅰ サバ類（ゴマサバ及びマサバ）

#### 【漁況経過（平成 19 年 4～6 月）】

##### 1 高知県

- (1)宿毛湾の中型まき網による漁獲量は 673.0 トン（以下、漁獲量は期間中の合計を示します）で、前年（2592.6 トン）、平年（1680.0 トン 以下、平年とは平成 8 年から平成 17 年の 10 年間の平均値を示します）を下回りました。まき網漁獲物の体長測定結果によると、魚種はゴマサバが主体でした。体長測定の結果によると、3 才魚（平成 16 年生まれ）が大半を占めていました。
- (2)定置網（窪津・加領郷・椎名 3 水揚地合計）による漁獲量は 53.7 トンで、前年（164.5 トン）、平年（139.2 トン）を下回りました。漁獲物の体長測定並びに県東部室戸地区の 2 漁場（椎名、高岡）の定置網入網調査等の結果によると、主体はゴマサバでした。平成 11 年以降、県西部の定置網で実施しているさば類 0 才魚の入網尾数調査（3～6 月）では、ゴマサバは前年の 1%、マサバは 34% に減少しました。
- (3)釣（立縄・多鈎釣等、清水・加領郷・室戸・甲浦 4 水揚地合計）による漁獲量は 236.0 トンで、前年（341.2 トン）、平年（345.5 トン）を下回りました。魚種はゴマサバで、西部海域の立縄漁法による漁獲の主体は、前年同様 3 才魚（平成 16 年生まれ）以上が占めていました。

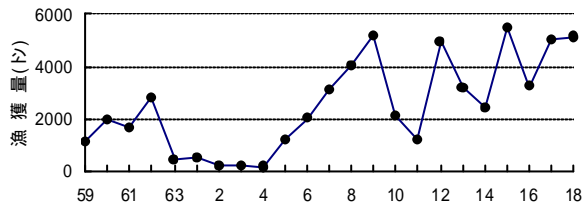


図 サバ類漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

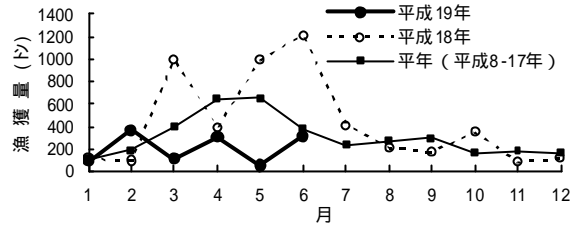


図 サバ類月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

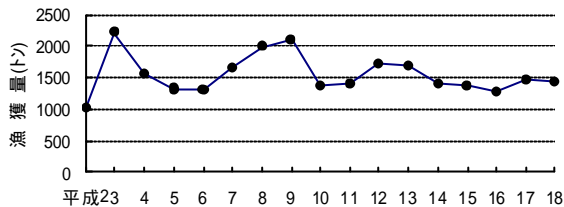


図 サバ類漁獲量の推移（清水・加領郷・室戸・甲浦：立縄等釣り）

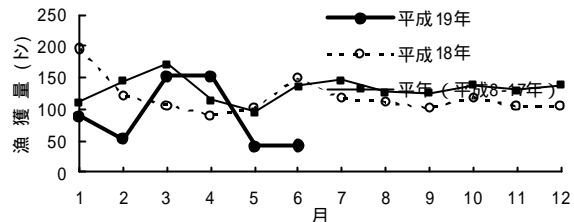


図 サバ類月別漁獲量の推移（清水・加領郷・室戸・甲浦：立縄等釣り）

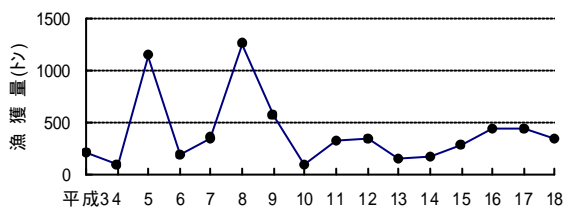


図 サバ類漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

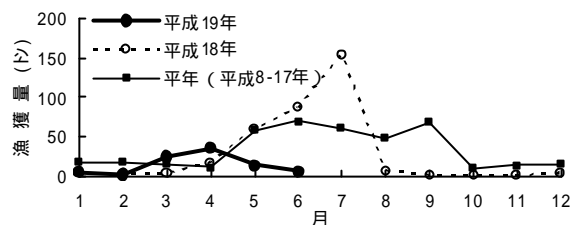


図 サバ類月別漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

## 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は、ゴマサバ主体に9,067トンで、前年比124%、  
 平年比224%でした。

愛媛県：豊後水道のまき網では南部を中心に漁場が形成され、4～6月の総漁獲量は25.3トンで前  
 年比4%、平年比2%ときわめて低水準に推移しました。

和歌山県：紀伊水道外域の2そうまき網による4～6月の総漁獲量はゴマサバ主体に691.3トンで、  
 前年比100%、平年比86%でした。熊野灘南部定置網の4～6月の総漁獲量は7.3トンで、前年  
 比30%、平年比8%でした。

### 【漁況予測（平成19年8～12月）】

(1) 漁獲対象：1才魚(平成18年生まれ)、2才魚(平成17年生まれ)、3才魚(平成16年生まれ)

(2) 来遊水準：

- ・ゴマサバ：1、2才魚は前年を下回り、3才魚以上を含めた全体としても、前年を下回ると見られます。
- ・マサバ：1才魚、2才魚とも来遊量は前年を上回るものの、依然、低水準で推移する見込みです。

(参考)前年 8～12 月のサバ類漁獲量

宿毛湾の中型まき網 930.5 トン

定置網(窪津・加領郷・椎名合計)14.0 トン

釣(立縄・多鉤釣等、清水・加領郷・室戸・甲浦 4 水揚地合計)540.8 トン

説明：

ゴマサバ：ゴマサバ太平洋系群の平成 19 年の資源の水準は「高位」、動向は「減少」と評価されています。このうち資源水準の高かった 3 才魚の残存資源量は、依然、多いと推定されていますが、2 才魚の資源水準は 3 才魚を大きく下回り、1 才魚(平成 18 年生まれ)はさらにこれを下回ると推定されています。従って、期間中のゴマサバ全体としての本県への来遊量は、前年を下回るものと考えられます。

マサバ：マサバ太平洋系群の平成 19 年の資源の水準は「低位」、動向は「増加」と評価されています。本県においても幼魚の来遊量調査等の結果から、2 才魚、1 才魚の期間中の本県への来遊量は前年を上回るものと考えられますが、マサバ全体としての来遊量は、依然、低水準に推移するものと考えられます。

## II マアジ

【漁況経過(平成 19 年 4～6 月)】

### 1 高知県

(1)宿毛湾の中型まき網による漁獲量は319.4トンで、前年(417.0トン)、平年(400.2トン)を下回りました。銘柄別では、150g以上の「アジ」が313.6トンで、前年(170.4トン)、平年(98.6トン)を上回りました。150g未満の銘柄「ゼンゴ」は5.8トンで、前年(246.6トン)、平年(301.6トン)を下回りました。漁獲物の体長測定結果等によると、1才魚を主体に漁獲されていたと考えられます。

(2)定置網(窪津・加領郷・椎名 3 水揚地合計)による漁獲量は 137.4 トンで、前年(300.5 トン)および平年(244.9 トン)を下回りました。

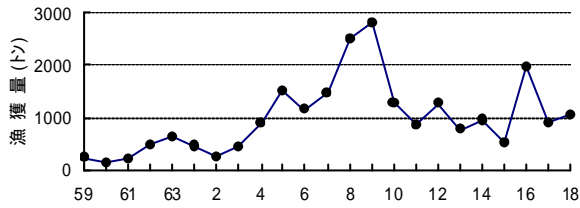


図 マアジ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

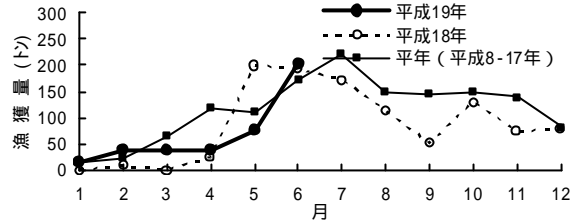


図 マアジ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

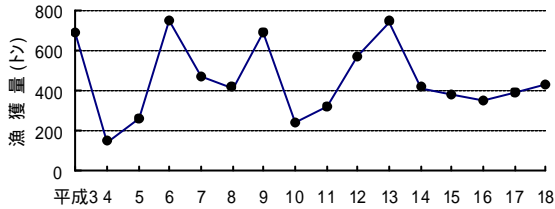


図 マアジ漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

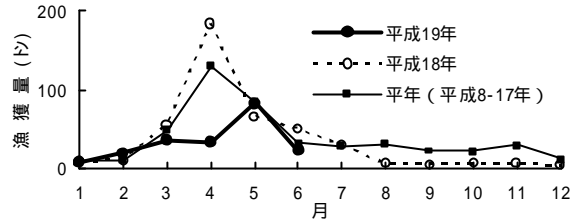


図 マアジ月別漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

## 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は321トンで、前年比41%、平年比28%でした。

愛媛県：豊後水道では中部海域を主体に漁場が形成され、4～6月の総漁獲量は1,152トンで、前年比80%、平年比54%でした。

和歌山県：紀伊水道外域2そうまき網による漁獲量は、816.3トンで、前年比936%、平年比119%でした。

### 【漁況予測（平成19年8～12月）】

(1) 漁獲対象：0才魚（平成19年生まれ）1才魚（平成18年生まれ）主体。

(2) 来遊水準：前年並から前年を下回る来遊と考えられます。

(参考) 前年8～12月のマアジ漁獲量

宿毛湾の中型まき網 447.0 トン

定置網（窪津・加領郷・椎名合計）25.9 トン

説明：

宿毛湾周辺海域では、1才魚（平成18年生まれ）の水準は前年を上回る水準にあるものの、0歳魚の来遊水準が低いため、全体では前年並から前年を下回る来遊量と考えられます。

土佐湾以東の海域では0才魚（平成19年生まれ）、1才魚（平成18年生まれ）主体に来遊します。宿毛湾同様、0才魚（平成19年生まれ）の来遊水準が低いため、当海域への来遊は前年



並から前年を下回ると推定されます。全体では前年並から前年を下回ると考えられます。

### III マイワシ

#### 【漁況経過（平成 19 年 4～6 月）】

##### 1 高知県

(1)宿毛湾の中型まき網による漁獲量は 184.3 トンで、前年（96.3 トン）および平年（76.0 トン）を上回りました。

(2)定置網（窪津・加領郷・椎名3水揚地合計）による漁獲量は 29.0 トンで、前年（16.2 トン）を上回り平年（66.3 トン）を下回りました。

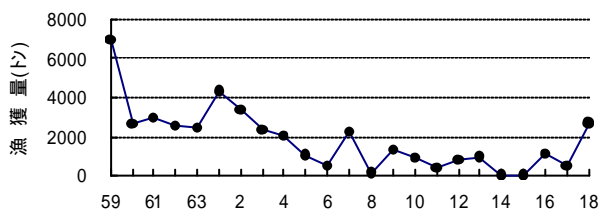


図 マイワシ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

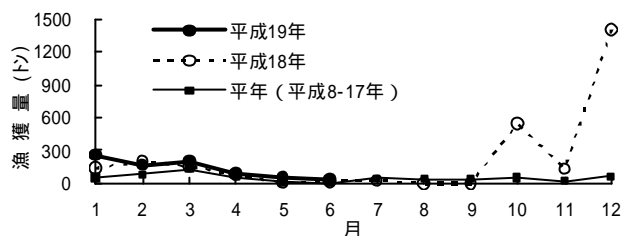


図 マイワシ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

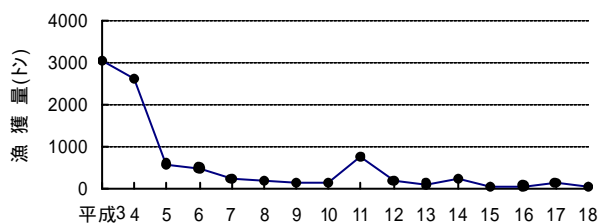


図 マイワシ漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

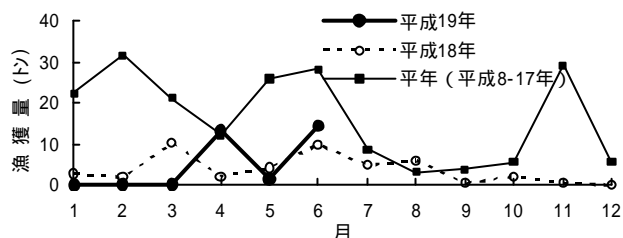


図 マイワシ月別漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

##### 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による 1～6 月における総漁獲量は 2,492 トンで、前年比 280%、平年の約 10 倍でした。

愛媛県：豊後水道では南部海域を中心に漁場が形成され、4～6 月の総漁獲量は 1,186 トンで、前年比 42 倍、平年比 60% でした。

和歌山県：串本・南部町漁協の 1 そうまき網による 4～6 月の総漁獲量は 64.1 トンで、前年比 80%、平年比 32.6% でした。

#### 【漁況予測（平成 19 年 8～12 月）】

(1) 漁獲対象：0才魚（平成19年生まれ）1才魚（平成18年生まれ）主体。

(2) 来遊水準：前年並から前年を上回ると考えられます。

（参考）前年8～12月のマイワシ漁獲量

宿毛湾の中型まき網 2076.5 トン

定置網（窪津・加領郷・椎名合計）9.3トン

説明：マイワシ太平洋系群の資源量は依然低水準で推移しています。しかし、平成19年冬期の産卵量は近年としては多く、この魚はマイワシシラスとして土佐湾で好漁となった後、現在0才魚として漁獲されています。今期はこの0才魚を中心として、一定の来遊が見込まれます。

#### IV カタクチイワシ

【漁況経過（平成19年4～6月）】

##### 1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は90.6トンで、前年（326.6トン）および平年（382.3トン）を下回りました。銘柄別では幼魚「ドロ」が68.6トンで、前年（67.7トン）並みで、平年（123.6トン）を下回りました。未成魚・成魚の銘柄「タレ」は22.0トンで、前年（259.0トン）および平年（258.7トン）を下回りました。

(2) 定置網（窪津・加領郷・椎名3水揚地合計）による漁獲は20.9トンで、前年（95.2トン）および平年（44.7トン）を下回りました。

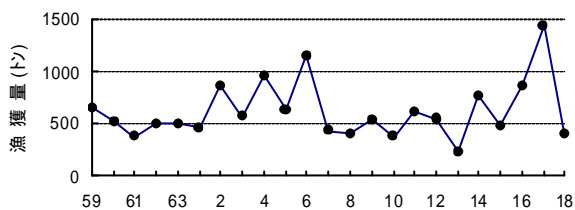


図 カササギ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

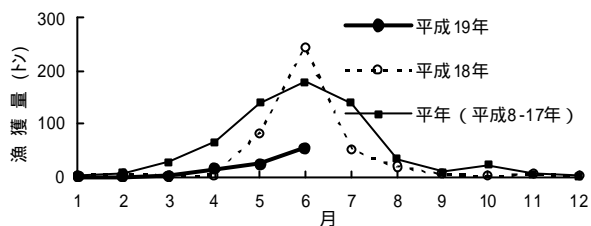


図 カササギ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

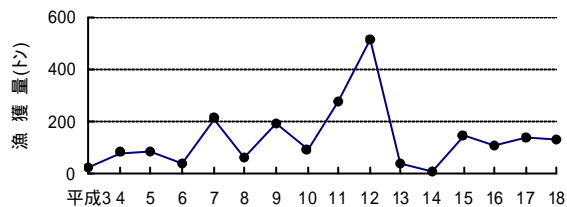


図 カササギ漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

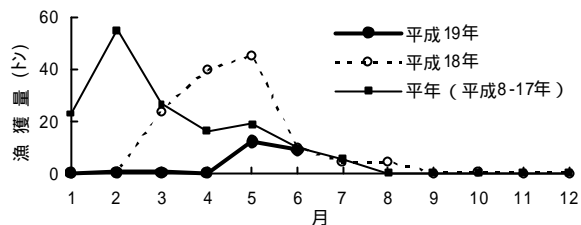


図 カササギ月別漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

## 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は4,547トンで、前年比464%、平年比73%でした。

愛媛県：豊後水道では中部、南部海域を中心に漁場が形成され、4～6月の総漁獲量は1,220トンで前年比109%、平年比202%でした。

和歌山県：成魚は漁獲対象ではありません。

### 【漁況予測（平成19年8～12月）】

本種の成魚は下半期の主たる漁獲対象ではないと考えられます。

## V ウルメイワシ

### 【漁況経過（平成19年4～6月）】

#### 1 高知県

(1)宿毛湾の中型まき網による漁獲量は994.2トンで、前年（1221.0トン）を下回りましたが、平年（423.4トン）を大きく上回りました。体長測定の結果によると、漁獲の主体は20cm前後の1才魚（平成18年生まれ）でした。

(2)定置網（窪津・加領郷・椎名3水揚地合計）による漁獲量は44.9トンで、前年（25.0トン）および平年（26.9トン）を上回りました。

(3)宇佐漁協の多鈎釣漁（土佐湾中央部）による漁獲量は14.3トンで、前年（18.1トン）を下回り

平年（6.5トン）を上回りました。

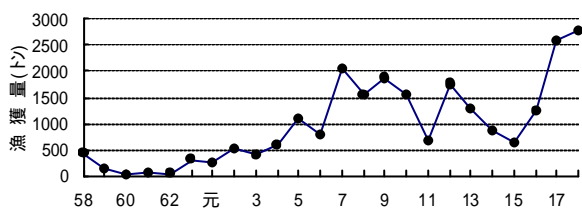


図 ウルメイワシ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

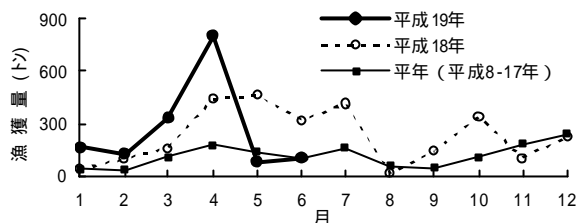


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

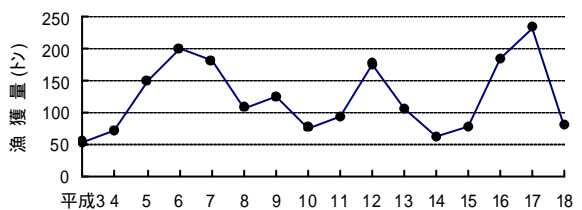


図 ウルメイワシ漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

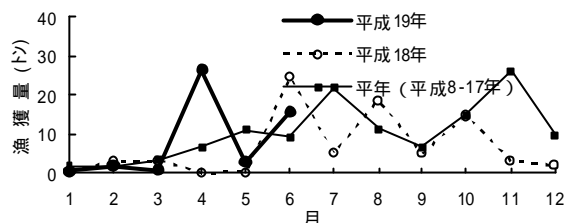


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

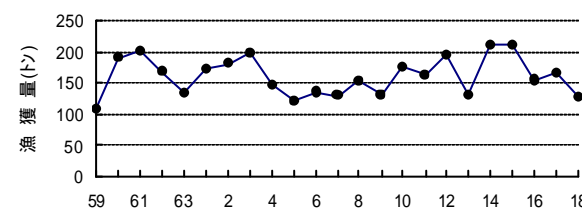


図 ウルメイワシ漁獲量の推移（宇佐：土佐湾中央部 多鈎釣）

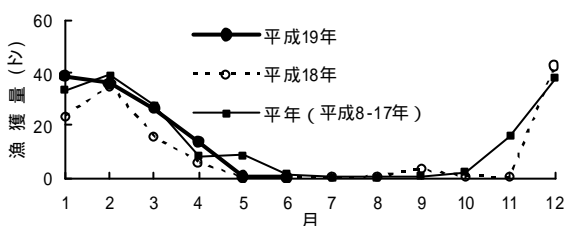


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移（宇佐：土佐湾中央部 多鈎釣）

## 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は2,727トンで、前年同期比119%、平年比147%でした。

愛媛県：豊後水道は南部海域を中心に漁場が形成され、4～6月の総漁獲量は1,194トンで、前年比419%、平年比290%でした。

和歌山県：串本・南部町漁協の1そうまき網では、総漁獲量が173トンで前年比39%、平年比116%でした。

### 【漁況予測（平成19年8～12月）】

- (1) 漁獲対象：0才魚（平成19年生まれ） 1才魚（平成18年生まれ）
- (2) 来遊水準：前年並から上回ると考えられます。

（参考）前年8～12月のウルメイワシ漁獲量

宿毛湾の中型まき網 828.6 トン

定置網 (窪津 加領郷 椎名合計) : 43.4 トン

多鈎釣漁 (宇佐漁協) : 47.5 トン

説明 :

ウルメイワシの資源水準の指標となる産卵量は、土佐湾を中心として高水準にあり、資源状態は良いと判断できます。また、本年上半期の漁況経過から、0才魚(平成19年生まれ)の来遊状況も良いと考えられることから、好漁であった前年並から前年を上回る来遊が期待されます。

## VI シラス

### 【漁況経過 (平成19年4~6月)】

#### 1 高知県

機船船曳網 (安芸地区・春野町・錦浦・田野浦 7水揚地合計) による漁獲量は 322.8 トンで、前年 (287.0 トン) 及び平年 (174.8 トン) を上回りました。

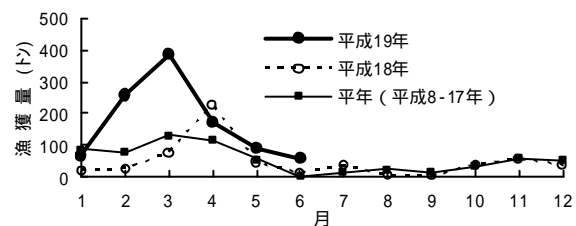
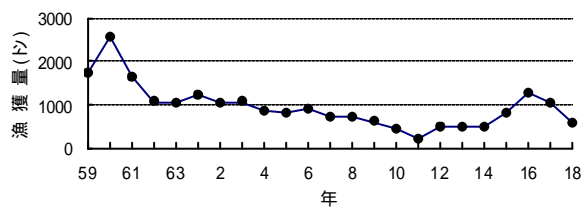


図 シラス漁獲量の推移 (安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7漁協) 図 シラス月別漁獲量の推移 (安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7漁協)

#### 2 周辺各県の経過

宮崎県 : 1~6月の総漁獲量は 1,411 トンで、前年比 102%、平年比 97%でした。

大分県 : 佐伯湾における 4~6月の漁獲量は 70.2 トンで、前年比 117%、平年比 76%でした。

徳島県 : 紀伊水道内における 4~6月の漁獲量は 407.2 トンで、前年比 75%、平年比 32%でした。

### 【漁況予測 (平成19年8~12月)】

本県の下半期シラス漁獲量は、主に 11、12月の漁況に大きく左右されるため、現時点では予測することが困難です。